第1部　助産婦の役割に関する調査

——病院に勤務する助産婦自身が評価した助産婦の仕事

I 調査対象者の属性

1. 調査対象者の年齢（図1-1）

今回の調査対象者の年齢は，年齢層がばらつくように，あらかじめ各施設に回答者の年代を指定して回答していただいたため，実際の就業者の年齢分布とは異なっている。厚生省報告例による年齢階層別資料と比べると，今回の調査対象の年齢階層は20代の割合が少なく，35歳から44歳までの割合が高いのが特徴である。

2. 助産婦としての経験年数（表1-1）

助産婦としての経験年数は，「5～9年」までの割合が26.4%と最も高い。次いで「10～14年」の23.5%である。

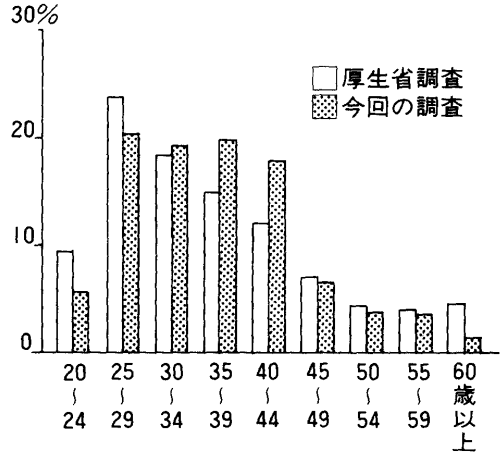

図1-1　年　齢

3. 助産婦になる以前の看護職としての経歴（表1-2）

助産婦になる以前の看護職としての経歴は，「4年以下」が78.7%と圧倒的に多い。

4. 配偶関係（表1-3）

配偶関係は，「未婚」36.8%，「既婚」58.9%と，既婚者の割合のほうが多い。

表1-1　助産婦としての経験年数

～4年	170	(20.2)
5～9年	222	(26.4)
10～14年	197	(23.5)
15～19年	156	(18.6)
20～24年	65	(7.7)
25年以上	29	(3.5)
無回答	1	(0.1)
合　計	840	(100.0)

表1-2　助産婦になる以前の看護職としての経歴

～4年	661	(78.7)
5～9年	71	(8.5)
10～14年	42	(5.0)
15～19年	9	(1.1)
20～24年	6	(0.7)
25年以上	3	(0.4)
無回答	48	(5.7)
合　計	840	(100.0)

5. 子 ど も（表1-4）

既婚者のうち,「子どものいる」割合は，89.9%と，約9割が子どもを有している。

Ⅱ 勤務施設の概況

1. 勤務施設の許可病床数（表1-5）

勤務施設の許可病床数は,「300～399床」の規模の施設に勤務している割合が24.5%と割合が最も高く，次いで「200～299床」が23.3%となっている。

2. 設置主体（表1-6）

設置主体は,「市町村」が25.1%と最も割合が高い。次いで「医療法人・個人」が14.4%となっている。

表1-3 配偶関係

未　婚	309	(36.8)
既　婚	495	(58.9)
離・死別	36	(4.3)
合　計	840	(100.0)

表1-4 子どもの有無

い　る	445	(89.9)
いない	50	(10.1)
合　計	495	(100.0)

表1-5 勤務施設の許可病床数

1～199床	82	(9.8)
200～299床	196	(23.3)
300～399床	206	(24.5)
400～499床	117	(13.9)
500～599床	86	(10.2)
600～699床	59	(7.0)
700～799床	37	(4.4)
800床以上	57	(6.8)
合　計	840	(100.0)

3. 病院の種類（表1-7）

病院の種類は,「総合病院」が最も多く80.6%,次いで「大学病院」の9.6%である。

Ⅲ 勤務状況

1. 勤務場所（表1-8）

勤務場所の主な対象（患者）は,「婦人」が92.9%と最も割合が高い。次いで「新生児」の62.9%である。

表1-6 設置主体

国立（厚生省）	55	(6.5)
国立（文部省）	35	(4.2)
国立（その他）	6	(0.7)
都道府県	79	(9.4)
市 町 村	211	(25.1)
日　赤	53	(6.3)
その他の公的医療機関	105	(12.5)
社会保険関係団体	39	(4.6)
学校法人	38	(4.5)
医療法人・個人	121	(14.4)
そ の 他	85	(10.1)
無 回 答	13	(1.5)
合　計	840	(100.0)

表1-7 病院の種類

大学病院	81	(9.6)
総合病院(大学病院を除く)	677	(80.6)
そ の 他	72	(8.6)
無 回 答	10	(1.2)
合　計	840	(100.0)

表1-8 勤務場所（複数回答）

新 生 児	528	(62.9)
未 熟 児	123	(14.6)
婦　人	780	(92.9)
そ の 他	138	(16.4)
無 回 答	6	(0.7)
回答者数	840	(100.0)

2. 現在の施設での勤務年数（表1-9）

現在の施設での勤務年数は，「4年以下」が31.5%と最も割合が高い。次いで「5～9年」の27.7%である。

3. 現在の病棟での勤務年数（表1-10）

現在の病棟での勤務年数は，「4年以下」が36.7%と最も高く，次いで「5～9年」の30.6%となっている。

4. 助産婦として採用されているか（表1-11）

あなたは，「助産婦として採用されていますか」という質問に「はい」と答えている割合は83.0%であった。「いいえ」と答えている割合は16.4%で，助産婦として採用されていない理由は，92%が「施設側の都合」という回答であった。

Ⅳ 看護体制

1. 直属の上司の資格（表1-12）

直属の上司は主に病棟婦長と考えられるが，その婦長の資格は67.7%が「助産婦」である。次いで「看護婦」が28.5%となっている。

2. 昨月自分でとりあげた分娩件数（表1-13）

昨月自分がとりあげた分娩件数は，「1～10件」であったと回答している割合が最も高く，70.7%であった。

表1-9 現在の施設での勤務年数

～4年	265	(31.5)
5～9年	233	(27.7)
10～14年	192	(22.9)
15～19年	97	(11.5)
20～24年	42	(5.0)
25年以上	11	(1.3)
合　計	840	(100.0)

表1-10 現在の病棟での勤務年数

～4年	308	(36.7)
5～9年	257	(30.6)
10～14年	170	(20.2)
15～19年	72	(8.6)
20～24年	24	(2.9)
25年以上	3	(0.4)
無回答	6	(0.7)
合　計	840	(100.0)

表1-11 助産婦として採用されていますか

はい	697	(83.0)
いいえ	138	(16.4)
無回答	5	(0.6)
合　計	840	(100.0)

「いいえ」とお答えの方にお伺いいたします。その理由は何ですか

施設側の都合	127	(92.0)
その他	7	(5.1)
無回答	4	(2.9)
合　計	138	(100.0)

表1-12 直属の上司の資格

助産婦	569	(67.7)
看護婦	239	(28.5)
医　師	11	(1.3)
無回答	21	(2.5)
合　計	840	(100.0)

表1-13 昨月自分でとりあげた分娩件数

0件	75	(8.9)
1～5件	441	(52.5)
6～10件	153	(18.2)
11～20件	47	(5.6)
21～30件	8	(1.0)
31～40件	8	(1.0)
41～50件	12	(1.4)
51件以上	15	(1.8)
無回答	81	(9.6)
合　計	840	(100.0)

3. 昨月の病棟の分娩件数（表1-14）

昨月の病棟の分娩件数は，「21～30件」が19.4%と最も多く，次いで「11～20件」が18.5%となっている。

4. 病棟勤務の助産婦数（表1-15）

所属している病棟の助産婦数（婦長が助産婦の場合その数も含める）は，「5～9人」が39.9%と最も多く，次いで「10～14人」が25.2%となっている。

5. 病棟勤務の看護職員数（表1-16）

病棟に勤務している看護職員数は，「16～20人」が29.2%と最も多く，次いで「21～25人」となっている。

6. 病棟の病床数（表1-17）

病棟の病床数は，「40～49床」が29.5%と最も多い。次いで「30～39床」の24.5%である。

7. 病棟の看護方式（表1-18）

現在の病棟の看護方式を複数回答で答えてもらった。その結果，チームナーシングが63.8%と最も割合が高い。次いで機能別看護方式が40.8%，受持制は11.1%であった。さらにその看護方式は業務が行いやすいかという問いに対して，51.5%

表1-14 昨月の病棟の分娩件数

0件	2	(0.2)
1～10件	77	(9.2)
11～20件	155	(18.5)
21～30件	163	(19.4)
31～40件	134	(16.0)
41～50件	94	(11.2)
51～60件	56	(6.7)
61～70件	38	(4.5)
71～80件	17	(2.0)
81～90件	12	(1.4)
91件以上	7	(0.8)
無回答	85	(10.1)
合計	840	(100.0)

表1-15 病棟勤務の助産婦数（婦長が助産婦の場合はその数も含める）

5人未満	135	(16.1)
5～9人	335	(39.9)
10～14人	212	(25.2)
15～19人	97	(11.5)
20～24人	39	(4.6)
25～29人	9	(1.1)
30人以上	4	(0.5)
無回答	9	(1.1)
合計	840	(100.0)

表1-16 病棟勤務の看護職員数

0人	12	(1.4)
1～5人	22	(2.6)
6～10人	54	(6.4)
11～15人	127	(15.1)
16～20人	245	(29.2)
21～25人	231	(27.5)
26～30人	87	(10.4)
31～35人	33	(3.9)
36～40人	6	(0.7)
41～45人	2	(0.2)
46人以上	2	(0.2)
無回答	19	(2.3)
合計	840	(100.0)

表1-17 病棟の病床数

～9床	3	(0.4)
10～19床	36	(4.3)
20～29床	141	(16.8)
30～39床	206	(24.5)
40～49床	248	(29.5)
50～59床	127	(15.1)
60～69床	43	(5.1)
70～79床	12	(1.4)
80～89床	6	(0.7)
90床以上	4	(0.5)
無回答	14	(1.7)
合計	840	(100.0)

が「どちらともいえない」と回答している。

8. 体験した看護方式（表1-19）

これまでに体験した看護方式は，「機能別看護方式」が71.2%と最も多く，次いで「チームナーシング」が70.7%，「受持制」は21.5%であった。

9. 配置転換について（表1-20）

助産婦が，産科系以外の病棟にローテーションすることについては，約半数の48.8%が「賛成」と答えている。

10. 受持制について（表1-21）

助産婦の受持制母児看護（プライマリーナーシング）に賛成ですかという問いに対して，73.3%が「はい」と答えている。

また，受持制に賛成と答えている616人に，受持制をとった場合，交替制勤務をする必要があると思うかという問いに対して262人（42.5%）が「必要がある」と答えている。

11. 助産婦の定数について（表1-22）

「『産科または産婦人科病棟においては，24時間を通して助産婦が必ず勤務している体制をとる必要がある。そのため入院患者3人に対し，1人

表1-18 病棟の看護方式（複数回答）

機能別看護方式	343	(40.8)
チームナーシング	536	(63.8)
プライマリーナーシング(受持制母児看護)	93	(11.1)
無回答	27	(3.2)
回答者数	840	(100.0)

その看護方式は看護業務が行いやすいと思いますか

はい	232	(27.6)
いいえ	147	(17.5)
どちらともいえない	433	(51.5)
無回答	28	(3.3)
合計	840	(100.0)

表1-19 体験した看護方式（複数回答）

機能別看護方式	598	(71.2)
チームナーシング	594	(70.7)
プライマリーナーシング(受持制母児看護)	181	(21.5)
無回答	53	(6.3)
回答者数	840	(100.0)

表1-20 配置転換について

賛成	410	(48.8)
反対	139	(16.5)
どちらともいえない	280	(33.3)
無回答	11	(1.3)
合計	840	(100.0)

表1-21 助産婦の受持制母児看護（プライマリーナーシング）に賛成ですか

はい	616	(73.3)
いいえ	188	(22.4)
無回答	36	(4.3)
合計	840	(100.0)

受持制をとった場合，交替制勤務をする必要があると思いますか

必要がある	262	(42.5)
必要がない	50	(8.1)
どちらともいえない	267	(43.3)
無回答	37	(6.0)
合計	616	(100.0)

表1-22 助産婦の定数は適切ですか

適切である	325	(38.7)
少ない	349	(41.5)
多い	6	(0.7)
わからない	144	(17.1)
無回答	16	(1.9)
合計	840	(100.0)

の看護職員が必要である。その看護職員の総数のうち8人以上を助産婦とする』という考えがありますが，助産婦8人以上という人数は適切であると思いますか」という問いを設けた。この助産婦の定数については，助産婦職能委員会で提案されたものである。この問いに対して，41.5%が「少ない」と答えている。また38.7%が「適切である」と答えている。

12. 助産婦の定員が定められているか

「所属病棟では，助産婦の定員が定めれていますか」という問いに対して，14.2%が「はい」と答えている。そのうち定員数は，「10～19人」が31.1%と最も多い。次いで「8人」が22.7%であった（表1-23）。

「現在その定員が満たされているか」という問いに対して，6割の施設が「定員を満たしている」と答えている（表1-24）。

13. 助産婦配置数は適切か（表1-25）

所属している病棟の助産婦の配置数は，「適切である」と答えている割合は26.7%と，3割にも満たない。

表1-23 助産婦の定員が定められていますか

は い	119	(14.2)
い い え	703	(83.7)
無 回 答	18	(2.1)
合 計	840	(100.0)

定員は何名ですか

2 人	2	(1.7)
3 人	3	(2.5)
4 人	1	(0.8)
5 人	3	(2.5)
6 人	4	(3.4)
7 人	10	(8.4)
8 人	27	(22.7)
9 人	7	(5.9)
10～19人	37	(31.1)
20～29人	13	(10.9)
30人以上	2	(1.7)
無 回 答	10	(8.4)
合 計	119	(100.0)

表1-24 現在定員は満たされていますか

は い	72	(60.5)
い い え	39	(32.8)
無 回 答	8	(6.7)
合 計	119	(100.0)

表1-25 助産婦配置数は適切ですか

は い	224	(26.7)
い い え	600	(71.4)
無 回 答	16	(1.9)
合 計	840	(100.0)

V 助産婦業務への満足感と問題点

1. 助産婦として満足できる仕事ができているか（表1-26）

「現在助産婦として満足できる仕事ができていますか」という問いに対して，44.3%が「いいえ」，39.8%が「どちらともいえない」と答えている。一方，「はい」と答えている割合は14.5%であった。

満足できない理由として，「行っている業務が看護婦業務と区別がつかない」と答えている割合が45.2%と最も多い。また「その他」と答えているフリーアンサーをみると，混合病棟で他の業務も行わねばならなくて多忙，人手不足，医師主導などから，自分自身が考える助産婦業務が十分にできていないことを理由にあげている。

表1-26 現在助産婦として満足できる仕事ができていますか

は　い	122	(14.5)
いいえ	372	(44.3)
どちらともいえない	334	(39.8)
無回答	12	(1.4)
合　計	840	(100.0)

満足できない点（複数回答）

医師主導で助産婦としてお産がとれない	122	(32.8)
行っている業務が看護婦業務と区別がつかない	168	(45.2)
その他	162	(43.5)
無回答	9	(2.4)
回答者数	372	(100.0)

2. 助産婦業務変革の必要性（表1-27）

「現在行っている助産婦の仕事は，変えていく必要があると思いますか」という問いに対して66.1%が「はい」と答えている。

3. 助産技術への自信（表1-28）

「あなたご自身，助産技術に自信がありますか」という問いに対して30.0%が「いいえ」と答えている。

表1-27 現在行っている助産婦の仕事は変えていく必要があると思いますか

は　い	555	(66.1)
いいえ	75	(8.9)
どちらともいえない	190	(22.6)
無回答	20	(2.4)
合　計	840	(100.0)

表1-28 助産技術に自信がありますか

は　い	162	(19.3)
いいえ	252	(30.0)
どちらともいえない	355	(42.3)
無回答	71	(8.5)
合　計	840	(100.0)

4. 助産婦業務の問題点（表1-29）

「現在の助産婦業務に問題点を感じていますか」という問いに対して，8割近くの78.7%が「はい」と答えている。しかし問題点を感じていると答えた661人の中で，問題点を積極的に解消しようとしていると答えている割合は31.3%であった。

表1-29 現在の助産婦業務に問題点を感じていますか

は　い	661	(78.7)
いいえ	141	(16.8)
無回答	38	(4.5)
合　計	840	(100.0)

問題点を積極的に解消しようとしていますか

している	207	(31.3)
していない	438	(66.3)
無回答	16	(2.4)
合　計	661	(100.0)

Ⅵ 教育と研修

1. 助産婦学校での教育（表1－30）

「あなたが学んだ助産婦学校での教育は，現在の業務にどの程度役立っていますか」という問いに対して，「かなり役立っている」「まあ役立っている」を合わせると87.4%が「役立っている」と答えている。

「あまり役立っていない」「役立っていない」と答えている100人の中で，どのような点が役立っていないかをたずねた結果，「助産技術が充分身につかなかった」と答えている割合が47.0%と，最も多かった。また「その他」のフリーアンサーでは，「正常分娩しかふれず異常分娩に対応できない」「桶谷式，SMC式（Self Mama Control）などの乳房管理や，様々なお産があることを教えてくれなかった」「無駄なレポートが多過ぎた」「授業と実践の差が激しい」などの意見があった。

2. 購読誌（表1－31）

「現在どのような専門雑誌を購読し，勉強していますか」という問いに「助産婦雑誌」が51.1%と，他の雑誌と比べて圧倒的に割合が高い。次いで「ペリネイタルケア」16.9%，「周産期医学」12.4%となっている。「その他」は，1誌しかあげていなかった14種類の雑誌をまとめたものである。

3. 院外研修への参加（表1－32）

院外の研修や研究会に参加することが「ある」と答えている割合は，85.6%である。参加回数は，年間に1回が39.1%と最も多い。

4. 学会参加（表1－33）

「学会に参加することはありますか」という問いに対して，60.5%が「ある」と答えている。参加回数は、年1回と答えている割合が68.9%と，最も高い。「0回」と答えているのは，毎年コンスタントに参加していないのではないかと思われる。

表1－30　あなたが学んだ助産婦学校での教育は現在の業務にどの程度役立っていますか

かなり役立っている	251	(29.9)
まあ役立っている	483	(57.5)
あまり役立っていない	97	(11.5)
役立っていない	3	(0.4)
無回答	6	(0.7)
合計	840	(100.0)

どのような点が役立っていないと考えますか（複数回答）

助産婦としての基礎知識が体系化されていない	30	(30.0)
助産技術が充分身につかなかった	47	(47.0)
学校で教わったことが臨床現場で通用しないことが多かった	32	(32.0)
その他	22	(22.0)
無回答	1	(1.0)
回答者数	100	(100.0)

表1-31 購読誌

な　し	24	(2.9)
助産婦雑誌	429	(51.1)
ペリネイタルケア	142	(16.9)
周産期医学	104	(12.4)
看護展望	5	(0.6)
看護教育	4	(0.5)
看護学雑誌	10	(1.2)
母性衛生学会誌	4	(0.5)
ナーシング・トゥディ	7	(0.8)
ＮＩＣＵ	2	(0.2)
ナースデータ	3	(0.4)
臨床婦人科産科	2	(0.2)
主任＆中堅ナース(日総研)	5	(0.6)
月刊ナーシング	2	(0.2)
臨床看護	2	(0.2)
プライマリーケア	2	(0.2)
ナース・コール	2	(0.2)
そ の 他	14	(1.7)
無 回 答	77	(9.2)
合　計	840	(100.0)

表1-32 院外の研修や研究会への参加の有無

あ　る	719	(85.6)
な　い	110	(13.1)
無 回 答	11	(1.3)
合　計	840	(100.0)

参加回数（年平均）

1　回	281	(39.1)
2　回	212	(29.5)
3　回	102	(14.2)
4　回	34	(4.7)
5～9回	44	(6.1)
10回以上	9	(1.3)
無 回 答	37	(5.1)
合　計	719	(100.0)

表1-33 学会に参加することはありますか

あ　る	508	(60.5)
な　い	321	(38.2)
無 回 答	11	(1.3)
合　計	840	(100.0)

参加回数（年平均）

0　回	65	(12.8)
1　回	350	(68.9)
2　回	54	(10.6)
3　回	7	(1.4)
4　回	3	(0.6)
無 回 答	29	(5.7)
合　計	508	(100.0)

Ⅶ 日常的に行っている業務

33の項目を出し，これらの業務を日常的に行っている業務か，緊急時のみ行っているのか，また行っていない場合，助産婦自身その業務をどのように考えているのかをたずねた。

日常的に行っているという回答が80%を超える業務は，集団保健指導，内診，分娩監視装置・胎児心電計使用，正常分娩介助，産褥期の乳房管理の5項目である。この5項目は，多くの助産婦が行っている業務であるといえよう（**表1-34**）。

表1-34 日常的に行っている業務 % N=840

	行っている		行っていない		無回答
	日常的に行っている	緊急時のみ行っている	今後は行っていきたい	助産婦は行うべきではない	
妊娠診断	4.0	9.3	50.1	30.1	6.4
妊婦定期健診	19.8	7.0	62.7	6.5	3.9
妊婦の超音波診断	2.0	2.6	62.4	27.5	5.5
妊産婦個別保健指導	62.9	8.9	25.1	0.0	3.1
妊産婦集団保健指導	86.0	1.2	10.0	0.1	2.7
分娩進行の診断(内診)	96.7	1.0	0.6	0.2	1.5
分娩監視装置･胎児心電計使用	95.6	0.8	1.0	0.5	2.1
母体の酸素吸入	79.2	19.3	0.4	0.0	1.2
人工破膜	71.8	23.7	2.3	0.6	1.6
正常分娩介助	95.2	1.8	1.3	0.0	1.6
会陰切開術	15.8	42.4	21.7	17.6	2.5
軟産道裂傷縫合術	3.2	9.4	29.2	54.0	4.2
子宮収縮剤使用	35.2	17.6	12.3	31.2	3.7
胎盤用手剝離	1.4	13.0	18.1	63.5	4.0
吸引分娩	0.1	2.5	10.5	83.6	3.3
骨盤位牽引術	1.1	10.0	27.4	58.1	3.5
子宮･膣強填タンポン挿入	1.5	20.5	23.1	49.8	5.1
膣 洗 浄	23.9	19.0	27.3	24.2	5.6
産褥期の乳房管理	96.0	0.5	1.4	0.4	1.7
褥婦1ヵ月健診	9.8	2.5	57.1	25.4	5.2
新生児仮死蘇生術(用手的)	19.5	53.8	14.0	8.9	3.7
気管内挿管による新生児仮死蘇生術	0.6	5.0	37.4	52.4	4.7
簡易人工呼吸器(バックアンドマスク)使用	9.9	44.5	22.6	17.6	5.4
陰陽圧新生児仮死蘇生器(レスピレーター)使用	4.6	8.0	25.0	55.4	7.0
新生児への酸素投与	44.0	43.5	5.1	5.0	2.4
新生児モニター使用	35.5	25.2	22.7	10.4	6.2
ブルーライト使用	61.7	6.8	9.8	14.4	7.4
V.K_2投与	76.1	2.9	5.7	9.5	5.8
新生児1ヵ月健診	7.3	1.4	51.2	33.1	7.1
皮下注射・筋肉注射	75.7	6.5	2.4	12.6	2.7
静脈注射	64.8	11.4	3.5	18.1	2.2
点滴静注による輸液	64.0	11.2	3.9	18.2	2.6
非観血的心臓マッサージ(新生児)	4.0	44.3	22.9	24.5	4.3